

# 大学の世界展開力強化事業 取組概要 北海道大学

## 【構想の名称】(選定年度24年度・申請区分(I))

人口・活動・資源・環境の負の連環を転換させるフロンティア人材育成プログラム

## 【プログラムの目的・養成する人材像】

ASEAN地域における人口・活動・資源・環境(PARE: Populations-Activities-Resources-Environments)の負の連環の解決のフロンティアを担う人材育成のため、本学とインドネシア、タイの6パートナー大学(カセサート大学、ガジャマダ大学、タマサート大学、チュラロンコン大学、バンドン工科大学、ポゴール農科大学)がPARE大学院教育コンソーシアムを形成し、国際連携教育システムの構築を図ることを目的とする。PAREの負の連環の解決に必要な不可欠な能力として定義した4つの力(フィールド研究力、多様性容認力、開拓力及び課題解決力)を備え、ASEAN地域の発展に主導的な役割を担うことのできる人材を養成する。

## 【構想の概要】

PARE大学院教育コンソーシアムにおける協働教育を通じて、分野横断的教育の質の保証、フィールドとラボの教育連携モデルの形成及び異分野専門家集団PARE同窓生ネットワークの形成を促し、もってアジアのフィールドにおいて同地域の発展に資する人材の輩出及びネットワーク形成を図る。

## ■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

- 厳格な成績の管理のため、プログラムを通じて何を修得したか等、学生の「4つの力」を図る自己評価表(セルフアセスメントシート)を作成し、プログラムの参加前と参加後に学生に記入させ、評価の対象とした。また、全パートナー大学の教員が参加して、学生が修得した「4つの力」について合同で評価するための評価表を作成し、試行的に評価を行った。
- 平成25年10月に第2回合同ファカルティ・デベロプメント(FD)ワークショップを開催。「目標設定と評価」について学び、合同評価表の改善のための参考とした。
- 質の高いプログラムを継続的に提供する体制の整備のために、平成26年3月に「ASEANと日本における教育連携システムの発展を目指して」と題し、第1回教育交流勉強会を開催。本学の他、慶応義塾大学と神戸大学の教員および事務担当者が出席した。



〈教育交流勉強会〉

## ■ 交流プログラムの内容、今後の開始に向けた準備状況

### ○ 平成25年度実施の交流プログラムの内容

英語で開講される「PARE基礎科目」(「PARE基礎論」と「PAREショートプログラム」, 必修)と、各大学院の特色を生かした「PARE発展科目」「PARE専門科目」(選択)の講義体系を構築し、以下の通り、交流プログラムを実施した。

- ・「PARE基礎論(3単位)」を本学で開講(平成25年6月～8月上旬)し、本学学生21名が札幌キャンパスで、パートナー大学の学生3名がインターネットを通じ受講した。
- ・「PAREショートプログラム(3単位)」を、北海道(「PAREサマースクール2013」, 平成25年8月15日～27日)で開講し、学生37名、教員5名が参加した。また、同様にタイ(「PAREスプリングスクール2014」, 平成26年2月17日～28日)で開講する予定であったが、タイ政府による「非常事態宣言」発令により開講を延期した。
- ・1セメスター以上留学した学生は、各大学が提供する「PARE発展科目」「PARE専門科目」を受講し、単位を取得し、母校で認定を受けた。
- ・本プログラムの修了要件を満たしたバンドン工科大学の学生2名に対し、双方の大学の副学長が署名したPARE共同修了証を授与した。



〈平成25年度サマースクール〉

### ○ 平成26年度に向けた準備状況

「平成26年度履修の手引き」を日本語と英語で作成し、各大学で3月末から学生の募集を開始した。

## ■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

	H24	H25	H26	H27	H28
学生の派遣	17	3	30	30	30
学生の受入	18	40	30	30	30

### ○ 日本人学生の派遣

- ・タイの「スプリングスクール2014」に、本学学生21名の派遣を予定していたが、タイ政府による「非常事態宣言」の発令により派遣を延期した。

- ・インドネシアのポゴール農科大学に1名、タイのカセサート大学に2名の学生を、それぞれ1セメスター派遣した。

注)H24・H25は実績、H26以降は計画

### ○ 外国人留学生の受入れ

- ・本学で開講したサマースクールに、全パートナー大学から学生計27名を受入れた。
- ・本学の特別聴講学生として、パートナー大学の学生12名を受入れた(そのうち2名は「サマースクール2013」にも参加)。

## ■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

- 本学に設置したセントラルオフィスと各パートナー大学に設置したリエゾンデスクが連携し、学生の派遣・受入に必要な手続きを行うとともに、学生寮など安価な宿泊施設の確保、語学(日本語、現地語)授業の提供等を行った。また、インターネットを通じた渡航前オリエンテーションを行った。
- スプリングスクールに参加する学生が、日本企業のインドネシアやタイ駐在員事務所で働く北大同窓生と交流する機会を設けるため、北大同窓生向け懇親会を企画したが、タイ政府による「非常事態宣言」の発令によって延期した。

## ■ 教育内容の可視化・成果の普及

- プログラムのパンフレットを作成した他、履修ガイドや進捗状況をプログラムのウェブサイト(<http://www.4pare.org/>)や、ブログ(<http://pareproject.blogspot.jp>)等で公開した他、大学関係者が集まる国内・外の会議でプログラムを紹介した。